
岩宿遺跡から学ぶ日本の歴史

～時代を発見！ 岩宿時代とは？～

群馬県立中央中等教育学校

1年4組 24番

関田 比真里

岩宿遺跡の大発見

〜 縄文時代が最古の時代ではなかった！ 〜

- 1946年 相沢忠洋によって、関東ローム層から石器を発見
(赤土)

↳ 火山の噴火でできた地層

火山が盛んに噴火していたため、人間は住めないと思われていたが、岩宿遺跡の発見によって、今までの常識がくつがえされた!

- 1949年 岩宿遺跡で黒曜石製の石槍を発見



↑ 相沢さんが発見した石槍

長さ 6.9cm

- ・ 人の手が加わっている、黒曜石で作られた石槍
- ・ 透明な部分が多い



← 相沢忠洋の銅像

手には、岩宿遺跡で発見された石槍を持っている。

史跡 岩宿遺跡

- 1) 指定年月日 昭和54年8月17日
- 2) 指定基準 特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準 史跡1 (遺物包含地) による。
- 3) 指定理由 岩宿遺跡は、赤城山東南方の小独立丘陵上に所在する旧石器時代の遺跡である。昭和21年丘陵の鞍部で旧石器が発見され、昭和24年の発掘調査によって多数の旧石器、炭化物等が出土した。日本文化の起原が旧石器時代にまで遡ることをはじめて立証した遺跡であり、しかも日本の旧石器のうちでも古い部類の石器群を含んでおり、日本歴史の黎明期のあり方を知る上で不可欠な遺跡である。

← 岩宿遺跡、



相沢さんが発見した 岩宿時代 とは？

～ 旧石器時代 なの？ ～

☆ 日本の歴史と世界の歴史はちがう

石器

- 材料となる石を打ち割って作る 打製石器
- 石を磨いて作る 磨製石器

世界の歴史	:	旧石器時代	→	新石器時代
日本の歴史	:	岩宿時代	→	縄文時代
使用されていた石器	:	打製石器		磨製石器

世界は石器時代を旧石器時代と新石器時代の二つに区分

{ 旧石器時代は マネモスなどが生息していて打製石器を使用した
 { 新石器時代は 土器が使用されるとともに磨製石器を使用した

つまり、世界では、磨製の技術は1万年以上前にはたつくとされている

日本は縄文時代が新石器時代にあたる。

すると、岩宿時代も旧石器時代としていいようなものだが、

一部、磨製石器も使用していた。

岩宿時代のほとんどは打製石器だが、約3万年前に石斧の刃先を磨く技術として使われ、磨製石器もあった。

岩宿時代
(3.5万年前～
1.4万年前)

- 岩宿Ⅰ石器文化 (約3万年前)
- 岩宿Ⅱ石器文化 (約2万年前)
- 岩宿Ⅲ石器文化 (約1万年前)

岩宿遺跡で発見されたもの

〜 相沢さんが発見した数多くの石器 〜

○ 岩宿Ⅰ石器文化

… より深い茶褐色のローム層から発見された

○ 岩宿Ⅱ石器文化

… ローム層の上のほうから発見された

○ 岩宿Ⅲ石器文化

… ローム層の最も上の部分から発見された

という、少なくとも3つの時期がある。



← 岩宿Ⅰ石器文化の石器

石斧や狩りに使ったと考えられるナイフ形石器がある。



↑ 岩宿Ⅱ石器文化の石器

狩りに使ったナイフ形石器などがある。Ⅰ石器文化より石器が小さい。

↑ 岩宿Ⅲ石器文化の石器

皮なめしの道具といわれる搔器が発見
相沢さんが発見した石槍もこの時期
だと考えられている。

石器と道具

石器は、緻密で「硬く割リやすい石が」使われている。

その中でもガラスに似た黒曜石は、石器を作りやすく切れ味も鋭いため、よく使われている。

〔石器の種類〕

岩宿時代の生活は狩りを中心にしたものだった

→ 石器は、狩りの道具の最も重要な部分といえる槍の穂先として使われていた。



ナイフ形石器



岩槍

カケラの鋭い縁を残した「ナイフ形石器」と

金体を木の葉形に加工した「石槍」



細石器

角などで作った槍先の形をした穂先に小さな「細石器」を埋め込んだ「細石器の槍」

↳ 狩りの道具



削器

道具の柄となるような

木を削った「削器」



搔器

皮はめしに使った「搔器」

木を切るための「石斧」
そのまま手にもって使うものもあつたが、柄が付けられたことも多くあつた。



彫器

骨や角を削るための「彫器」



石斧



柄につけた石斧

実際に見てきました！ 岩宿博物館をたのびました



← 岩宿博物館

マモス



- 岩宿Ⅰ石器文化と岩宿Ⅱ石器文化を実際に比較してみると
大きさ・形・色がちがっていた！

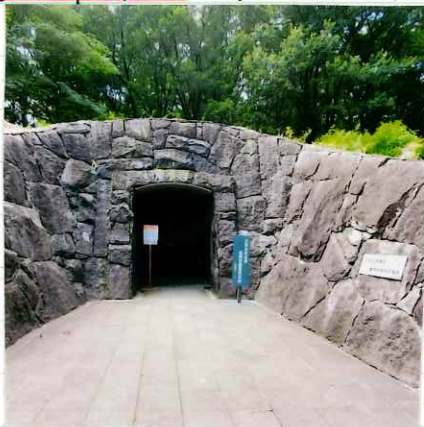
岩宿Ⅰ石器文化の石器は大きかった、こぶこぶと丸い、こげ茶・黒
 ↓ ↓ ↓

岩宿Ⅱ石器文化の石器は小さかった、三角形のように尖っている、透明・キラキラしている

特に大きさは差が大きい、Ⅰ石器文化の時代の石核は ハンドホルくらい
 Ⅱ石器文化の時代の石核は ヒョポコ球くらい

- 猿人復原模型を実際に見ると

{ あごが前に出ている
姿勢が前かがみ
うでが長い



ことが分かった



- 地層を実際に見ると、(岩宿ドール)

{ 色がちがう
つぶの大きさがちがう
ことが分かった。

境目がくっきりしていた



更に深めてみました！ 岩宿時代の人口の暮らし 〔当時、存在していた動物〕

- 岩宿時代は、現在よりも気温が寒い氷河時代。
- 陸続きになっていたところや氷の橋を渡り、
現在日本にはいない大型の絶滅動物が当時大陸からやってきた



← ヤバオオツノシカ

約43万年前に日本列島が大陸とつながっていたときにやってきた動物。

〔石器以外の道具〕

- （石器に木の柄がつけられていたこと
- 衣服やイエの屋根材として毛皮が使われていたこと
- それらを結ぶために木や草の繊維が使われていたこと

が考えられる。

動物を狩りて得られた骨や角も道具として使われた。



鹿の毛皮



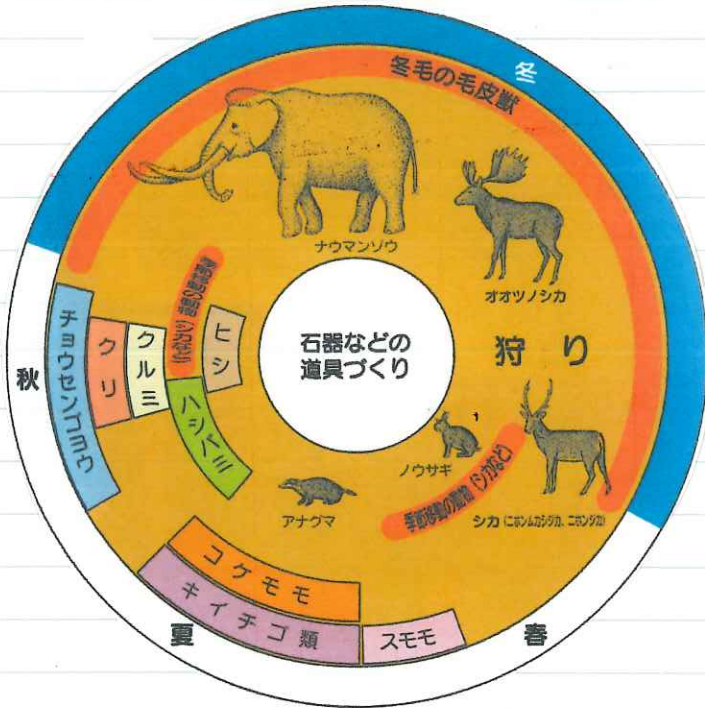
鹿で作られた糸

鹿の角で作られた槍先に、小さな石器を組み合わせせて作った細石器の槍は、石・角・木などを組み合わせせて作られている。





- ・岩宿時代の人は、狩りによって得た動物の肉や木の実などの植物を食べていたと考えられる。
- ・鍋や釜がなかった岩宿時代は、狩りで捕れた動物の肉を生で食べたり、直接火で焼いて食べていた。



- ・植物の実のなる時期や新芽の出る時期である春と秋にかけては植物の食料が多く手に入った。

- ・下草が枯れて木の葉が落ちる冬は視界がよくなり、動物の肉もおいしいため、狩りを行っていた。

[植物]

硬い殻をもつ木の实

小さな果物類

いせにも ...

クリ・クルミ・ハシバミ など

キイチゴ、コクモモ、クロメノキ、ヒメウスノキ など

チョウセンゴヨウの松の実

ユリの球根、ヤマイモ、木や草の新芽

などの植物を食べていた。

[動物]

ナウマンゾウ、マンモス、オオツノシカ、といった大型の動物も狩り

Q、もしナウマンゾウを1頭とめたら、どれくらい食べられるのか？

A、大きい物は4匹 → 2400kgの肉が手に入る

一人一日1.5kgの肉を食べるとすると、50人の1ヵ月分の食料が手に入る。

①衣

- ・ 現在より寒い氷河時代を乗り切るための服装。
- ・ 岩宿時代の服は「見つかっていないが」、ヨーロッパアルプス山中で発見された5千年前のミイラのようなものから、狩りでとった動物たちの毛皮を使ったものが多かったと考えられている。



②住

- ・ 岩宿時代の人のイエは「簡単なテント」
→ 狩りをしながら移動生活を営んでいたため。
短い時間で建てられるイエが当時の生活に適していたから。
- ・ 毛皮で覆われているので、中は暖かく寒い冬も乗り越えられる。
- ・ 簡単なテントのようなものだと考えられているため、はっきりとしたイエの跡が発見されることは、ほとんどない。

〔岩宿時代のイエの作り方〕

- ① 柱を組む
- ② ひもを張る
- ③ 下から毛皮をかけたいく
- ④ 完成



研究のまとめ

この研究のはじめの疑問

「岩宿時代とは？」についての自分なりに考える。答え

- ① 岩宿時代とは世界の旧石器時代のなかでも独自性をもっている時代
- ② 今までの常識をくつがえした、新しい時代の発見
- ③ 人が土器を使わず、石器で生活してきた時代

①について： 岩宿時代は磨製石器の技術もあつた、日本独自の時代だということ。
つまり、岩宿遺跡から発見された時代は世界とはちがう
「岩宿時代」のものである。

②について： 相沢さんは遺跡を発見しただけでなく、時代を発見した。
ではなぜ、相沢さんは発見できたのか？

私は2つの理由があると考えた。

まず、相沢さんは「常識」を「当たり前」だと思わぬ。

疑問を持ち、自分の考えと根拠を持ち続けたから。

もう一つは、自分の興味をもたことについて、よく知って途中で思いを断たず、

仕事をやりながら、考古学の道に進んだから。

だと、私は思う。

③について： 人は石器と狩りで得た動物の皮や角を利用していた。
衣食住の全てが寒いという環境や動物に関わっている。

参考文献

- ・ 新泉社 「旧石器時代」の発見 小菅 将夫
- ・ 岩宿人のくらしをさぐる 学習シート 岩宿博物館
- ・ 岩宿人のくらしをさぐる (パンフレット) 岩宿博物館